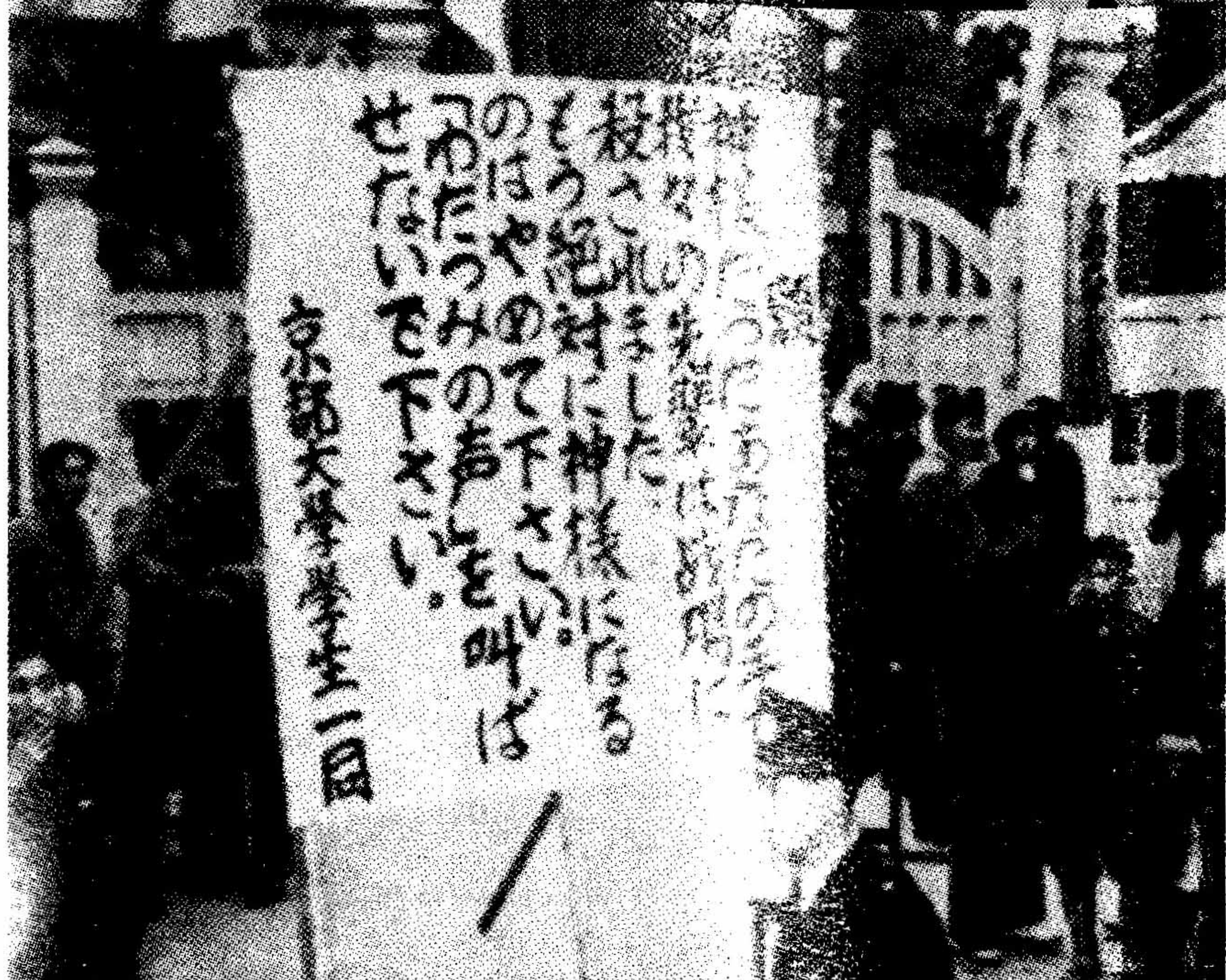


# 戦後京都のあゆみ

岩井忠熊  
藤谷俊雄  
監修



# 戦後京都のあゆみ

岩井忠熊・藤谷俊雄 監修

かがわ選書5

216.2

セ

5わ

HIRAKAWA JIMMY  
 P. O. BOX NO. 4 SEMBA  
 OSAKA, JAPAN  
 Japanese Era of 2500  
 No. 25 OSAKA JAPAN



空襲の様をしるした日記

すます敗戦を確信している。  
 年末に近づくにつれ、物資不足はますます激しく、また男子が戦争に動員され人手不足で、尿尿処理が充分でなく市民は困っている。

朝六時五〇分起床した。尿尿を何としても汲取って呉れない。臭気と不潔に耐え兼て、絶対絶命の考えが出現した。元クロバア空家の便所へ、バケツ四はいを密かに運んだ、五十川さんも寝て居る内に、ヤレヤレ是で三、四ヶ月は持ちこたえると共に、金三、四円を儲けたる訳だ、朝から臭い銭儲けなり（四四・一二・二一）。

**本土空襲下**  
**平和の祈り**  
 一九四四年の一月二四日は東京にB29の初空襲があり、中部地方も襲撃されて、身近に危険

がせまりつつあり、彼は戦争の真相を知りたいと、次の通り記している。

毎日、毎日頻繁なる空襲に、我等は馴れ

ALL COMMUNICATIONS TO BE WRITTEN IN THE ENGLISH LANGUAGE

て驚かないが、戦争は攻勢あつてこそ、勝目ありと思う。今少し戦争の真相を秘せずして聞かせてこそ、国民一般に協力を求められ、よりどころなりと思う。

ある人は一方において強がり、甚だ楽観的に論ずる者あり、また一方に於いては極度の悲観論をおす者があり、是は余り真相を発表せないからの故による（四五・一・四）。

一月一八日には京都東山区松原辺が爆撃され、被害死傷者二七〇名（内四一名死亡）あり、二三日にも爆撃を受けたことが記され、一月三十一日「来年の正月は鬼が笑うが、平和な正月を迎えて、子供達を喜ばせたい、神に祈り、捧げつつう」と平和の到来を祈っている。四五年の日記は五月一五日までで、四六年四月九日までが別帳のようで、敗戦前後一年分が欠けているのは惜しい。

戦中から続いていた食糧危機は戦後になつても解消されず、終戦の年は凶作で収穫米は四二九六万石で、雑穀を加えても一八九二万石不足し、一〇〇〇万人が餓死すると予想されていた。京都では四六年一月から九月一四日まで二六〇日のうち配給のあつたのは九〇日で、彼の家では娘さんがサツマイモの買出しをして補給していたが、時には警官に没収され、その苦労は大変なものであつた。

彼はかかる食糧危機を生ぜしめた元凶は悪政であるともみなし、その悪政の仇を討つ手段さえとざされてゐる今日は、封建時代よりも悪いという。そして欠配続行中に「知事や市長は何をしている、欠配ほぼ二百日目、一粒の米の配給もなし、食えないナンバ（とうもろこし）三日分、これは何ともしようがない、愚痴つても。知事や市長は知らん顔、よう殺されんものかなあと思う」（四六・九・一八）。さらに一〇月四日には「京都府知事や市長の横暴と政策の怠慢は誰でも知っている。京都市民の迷惑と苦痛に、将来においても並々ならぬ悩みがある。知事も市長も辞職が先決問題じゃあ」と辞職をせまっている。

第二次大戦の敗戦によって、

天皇制と軍国主義の専制的支配はおわった。

圧制が取り除かれた時から、

戦前に始動し貯えられてきた国民のエネルギーは

噴出し、躍動した。

戦前の京都の住民がつみ上げてきた

自治と生活向上と文化創造のための営為は、

今や奔流となって戦後史をつらぬいていったのである。

戦後約五年にわたる怒濤のような民主運動・労働運動の高揚――

それらには、いつも京都市的といえる



M744AC2



330501810

京都市右京中央図書館